



BASIC. 2 FIRST PROJECT

# FREE MEDICINE '91

1991.11.27(WED) - 12.7(SAT)

SPC PRESENTS 1991

GALLERY SURGE

## 物質との間わりの中で……

### ——作品形成についての講義——

まず第一に、それは、物質的な世界の表象世界〔外的観察〕によって直感得ることのできる対象とは異なります。

構成要素は、それぞれ具体的な物理素材であることは言うまでもありませんが、しかし構成全体から見た場合、各々の物理素材の内的性は、ほとんど問題とはされていません。

構成諸部位に於いて、例えば、球体であるとか、チューブ球体であるとか、あるいは、床面の重いバネ球体等々は、物理學から面積、適用された物 [レディ・メイド] であることは見てとることが出来ると思われます。しかし、實際、問題とすべきことは、各部位の構成の仕方にあります。そして、この構成全体は、必ずしも思想的な物質世界に存在するものを算し取ってきたとは限らないと言つておかなくてはなりません。

つまり、前述の具体的な物理素材、すなわち、布やビニールシート、チューブ、ダクト、合板等の辻、その構成全体を具体的に表現することを可能とする為に選択されたということが以外には、何ら意味は持つ無いのです。各々の素材の特性や質感には、事細かな複数が加えられてはいますが、ただし、素材自体から構成全体が形成されたわけではありません。では、構成全体を形成しているものは何か? それは、物理的素材から形成されただけでなく、形成者としての思想体を含む他にはありません。これは、到底し、認識する物体の基礎であると言えます。

さて、人間は、物質自身から思想を導き出すわけではありません。物質からアイデアを得ることはあり得ますが、しかし、物質から人間が作り出すもの、それは、基本的には、思想の具現化と呼ばれるべきものであるはずです。つまり、必ず思想があって、物質はその間に作られる、物が先にくるわけではない。これは、強調しておかなくてはなりません。

水谷 知典

・水谷知典 1961年東京出身。造型作家。SPC美術人の3人。企画、構成者。



"ELEMENTAL DOMAIN"

SPC PRESENTS (1981) Installation

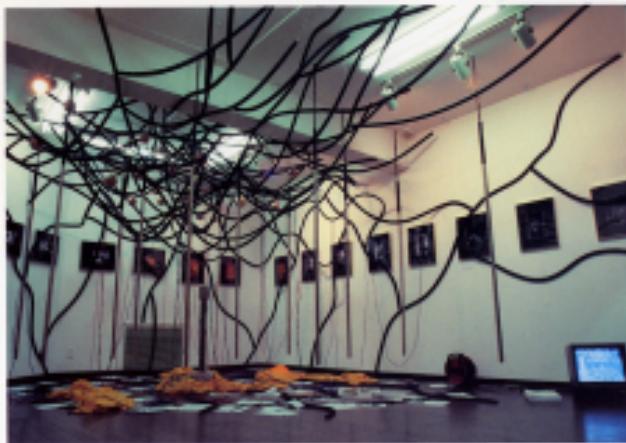
Place Gallery Sorge



"ASTRAL DOMAIN 720°"

SPC PRESENTS (1981) Installation

Place Gallery Sorga



"Out of The Garden of Eden"

SPC PRESENTS '90. Installation

Place: Gallery Sungi



"ENERGY PLANT 2 360°"

SPC PRESENTS '90. Installation

Place: Gallery Tokyo

### Tomomi Nagakura Chronological Record

1982	第36回日本アンディバンダン展 FRAGMENT展	東京都美術館 画廊春秋
1983	第36回日本アンディバンダン展 FARM PRODUCTS展	東京都美術館 画廊クレゾン
	SPIRIT PRODUCTS展	画廊クレゾン
1984	SPC及び「BASIC」計画・始動	
1985	FREE MEDICINE '85	画廊可画廊
1987	FREE MEDICINE '87	真木画廊
1988	FREE - MEDICINE '88	田村画廊
1989	INVITATION OF FREE MEDICINE '89	ギャラリーサージ
	FREE MEDICINE '89 —MIDDLE ROUND—	ギャラリーサージ
	FREE MEDICINE '89 —FINAL ROUND—	真木画廊
1990	SPC及びBASIC.2計画・始動 SPC PROJECT FILE '90 META PARADIGM '90	ギャラリーサージ
1991	FREE MEDICINE '90	ギャラリーサージ

\*SPCとは、SPIRIT PRODUCTS & COMPANY (©)1984の略称です。

## 変容するプロセスの基礎

### —BASIC.2 始動にあたって—

「これらの一群の事物は、一体何の為なのか？」この様な疑問は、一見、素朴に思われるものの、本質的には、あらゆる場面において既往されて然るべき根元的な問いであると言える。なぜならば、それは、人間が、個性的に自我を、健全という舞台の上で発展、進化させてきたことを想えば、認識の根柢に懸念として立ち現われて来ざるを得ないからである。

我々が自然を認識する際、それを全般的にのみ把握していると言うことは正しい。系統的に道徳感で見るよう概念化された宇宙を肯定する必要はないが、自然科學に對いて、あるいは物理學に對いて現在も、十分に通用する認識、理論、法則は、自然のものとは全く別のものである。世界観よりも、主觀的視野の中にこそ自然が、あるいは自然に近い本質的な何かが存すると言えば、一実に伏されるであろうか？しかし、學問として證明可能な理論体系を編み出す研究者、その人の主觀によって、世界觀の結果構成が、まことになることは現在、事実として確証されている。

かつて、原始宗教の時代には、こうした概念体系は、存在しなかつたわけであるが、理論によると、経験によるとではなく、神実体そのものが直接被歴できたと言われる。自然身體が神そのものであったわけである。しかし、そこには今だ自然といったものは、ほとんど形成されておらず、自然のことながら、二元と善惡といった二元的觀念も存在しなかつたわけである。聖代の社會からすれば、太古の人類は、もっぱら神の手足として働くロボットのような存在として扱われるかもしれない。

やがて、本の人類が、個としての自我を形成するにつれ、體の中の様な意識状態がら、明瞭な規定めた意識を運用し始める、神実体の直接的被歴が薄れていったとすれば、意識に矛盾が存在しないであらう。ただし、ここで重要なのは、決してエゴイズムの形など、自然身體の形は、全く同時に形成されたであらうと想うことである。エゴイズムを介さなければ、我々はいつまでも神の手足として被意識の状態を譲り受けていると言える。すなわち、自然身體の獲得なくしては、当然、律法も神学的觀念も生じせず、人間は、善惡の區別や、まして神を見い出す必要もなかつたのである。

時代は下り、人類が十分にエゴイズムの形成を遂げ、その代償として神實體の觀照が、ほとんど消滅した後、ユダヤのペルレムに神の一人手が隠すこととなる。このことにより、新しい宗教の時代が到来するわけであるが、ヨーロッパにおいてキリスト教が、コペルニクスの時代が到来するほどの、一神教のパラダイムを保持する

に、あまりにも強力なドグマを形成したことでも事実として認められなければならぬ。コペルニクスの出現によって、地球は宇宙の中心ではないという觀点に人類が立った時に始めて、現代文明のパラダイムが発生する。新たな主觀性と、個體的意識がより解放的に成長を遂げることとなるわけである。

さて、キリスト教の本來の目的を、あえて簡明に述べるならば次の様になるであろう。つまり、それは、獲得された財物を愛するならば次の一神になるであろう。エゴイズムを克服することにあると、そして、そのことを通じてこそ神の一神子としてのキリストの中に入していくことが許されると、もし、そう黨にならなかったとすれば、キリスト教は、単に一神教の確執に止まり、人類の進化に開拓する自然の後退と解放に重大な価値を置くことはできなかつたと置わざを得ない。かつて、ルドルフ・シュタイナー博士は、人類の自我一神ゴトブルの形成、増大と、成長し、解放するものへの進化レベルの中心にゴルゴタの秘跡は置かれるべくしてあると言った旨を述べているが、キリスト教の本質は、正に、増大し波及した歴史の過程を継続しつつ、ゴルゴタの秘跡の中に探しされなければならないであろう。

そして、以上のことから次の様な一神の觀點が立ち現われてくる。すなわち、唯物論を立脚点として形成してきた科學は、二元論、あるいは多元論から脱却しなければならぬ。唯神論を立脚点として形成してきた宗教は、一神教から脱却しなければならない。つまり、積前たる主觀的視野から、エゴイズムが説教された時には、宗教と科學は一つのものとなると言うことである。それは単に、感情を殺して客觀的になるとではなく、また、あるいは、指標の意識狀態に立ち換へると云ふことを意味するものでもない。また、單に主觀的であるとすれば、地理は、今だに宇宙の中心でもあり統計が可能であると言つたことも顧慮すべきであろう。

さて、こうした言說身體が可能か不可能かを性急に問うべきではないと述べておきたい。なぜならば、「これらの一群の事物は、一体何の為なのか？」という疑問に答える角には、少なくとも上述の一神的觀點に立たなければならず、また同時にこの觀點に立てなければ、この諱言の意味を十全に理解することも不可能だからである。

1991年盛夏 SPC

企画・制作・発行：SPC SYNTHETIC PROJECT  
主 催：SPIRIT PRODUCTS & CO

SPIRIT PRODUCTS & CO! SPC 東京都大田区上池谷4-25-15 TEL  
Factory Tel 03-3739-4468  
Office Tel/Fax 03-3752-8862

Publisher: SPC SYNTHETIC PROJECT 4-25-15, Ueda-ku, Tokyo 145 Tel 03-3739-4468

Graphic Design: Tomomi Nagakura Printing: Setouchi GDM

Tel 03-3752-8862 Design Support: Tomomi Nakamura and SPIRIT PRODUCTS LTD.

協 力：ギャラリー・サージ  
企画責任：永倉知美

GALLERY SURGE ギャラリー・サージ 東京都千代田区本町2-7-13 電話03-242-7100  
Tel 03-3861-2581 Fax 03-3861-2582

Cooperation: Gallery Surge 2-7-13, Nihonbashi, Chiyoda-ku, Tokyo 101 Tel 03-3739-4468 ~ 500  
Design Support: Tomomi Nakamura